

1. はじめに

2015年3月、北陸新幹線が開通し、石川県には国内外を問わず多くの観光客が訪れるようになった。しかし、北陸新幹線の発着駅である金沢市と比較すると、金沢市より南の市町村など、交通アクセスの悪い地域は観光客が少ないという課題が残されている。石川県観光戦略推進部の調査¹によると、石川県を加賀地域、金沢地域、白山地域、能登地域の4つの地域区分に分けると、加賀地域と白山地域の観光入り込み客数が少ないことが明らかとなっている。また、金沢市経済局の金沢市の観光客を対象とした調査²でも、周遊観光地や再来訪地として金沢のみを挙げる人が多い。

そこで、加賀地域と白山地域の中間に位置する能美市内の観光名所の中で最も来場者数が多い「いしかわ動物園」に着目する。いしかわ動物園は平成27年度の来園者数が34万人を超え、前年度より増加したことでより一層にぎわいを見せている。県内外を問わず多くの人々が来園し、いしかわ動物園が活性化することで、能美市や近隣の白山市等、白山地域と加賀地域の活性化にも繋がると考えられる。

本研究では、いしかわ動物園に対するニーズをアンケート調査により把握し、今後も来園者数を増やすためにどういった試みが必要であるかを探求することを目的としている。第一に、来園者の目的や特徴を分析する。来園者の特徴や目的を把握することにより、より来園者に寄り添った試みを行うことが出来ると考えられる。第二に、非来園者の特徴を分析する。来園しない理由を把握することで、それに向けた宣伝や対策等を行うことが出来ると考えられる。第三に、いしかわ動物園の来園目的について分析し、今後どうすれば動物園への来園者数を増やしていけるかを考察する。

2. 分析方法

いしかわ動物園に対する意識を把握するための方法として、アンケート調査を実施した。アンケート調査は2016年8月27日に、石川県金沢市の石川県産業展示館で開催された「いしかわ環境フェア2016」の来訪者を対象に行った。本アンケートの有効回答数は198部であった。

第一の来園者の目的や特徴の分析は、回答者の個人属性、来園回数、来園季節、同伴者、交通手段といった回答を用いた。第二の非来園者の特徴は、同様の項目についての非来園者を対象とした回答を使って分析した。第三の動物園の来園目的については、動物園がどのような取り組みを行えばより来園したいと思うかに関する回答結果から分析した。

¹ 石川県観光戦略推進部 (2015) 「統計からみた石川県の観光」

https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kankou/documents/ishikawa_kankou_toukei2015c.pdf (2017/2/9 最終アクセス)

² 金沢市経済局営業戦略観光交流課 (2015) 「金沢市観光調査結果報告書」

<http://www.kanazawa-kankouyoukai.or.jp/com/img/useful/exchangecity/kankouchousa-2015.pdf> (2017/1/26 最終アクセス)

3. 分析結果

第一の来園者の特徴については、まず過去3年間の来園経験に関して回答者の113人(57%)が来園したと答えている。来園の目的については、「種類は問わず動物を見るため(触れ合い等も含む)」と答えた人が72人(64%)と最も多かった。また、入園料に対する意識調査では現在の830円が「適切である」が63人(56%)で最も多かった。今後も来園したいかについては、「そう思う」、「ややそう思う」と答えた人の合計が110人(97%)であり、リピート率が高いことがわかった。リピート客には子供と来園する人の割合が高いことが予想されたため、同居家族に子供がいる人、子供と来園した人、子供とは来園していない人の中で今後の来園意識に違いがあるかを比較したところ、大きな差はみられなかった。この結果から、子供の有無に関わらず再来園したいと考えている来園者は多い傾向にあり、子供以外をターゲットとしたイベントも有効であると言える。

第二の非来園者の特徴についての調査では、来園しない理由として「交通の便・立地が悪い」が最も多く、非来園者85人中23人(27%)であった。また、入園料に対する意識調査では、現在の830円で「適切である」という回答が50人(59%)で最も多かった。今後機会があれば来園したいかについては「そう思う」、「ややそう思う」と答えた人が合計65人(76%)おり、イベント等の開催で来園者を増やしていくことは十分可能であると考えられる。

第三のいしかわ動物園に来園する目的については、動物との触れ合いを目的とする来園者が多いことが明らかとなった。図1が示すように、現在動物園が取り組んでいる事柄の中で動物とのふれあいイベントが高く評価されており、来園目的に関する調査でも、「種類は問わず動物を見るため(触れ合い等も含む)」という回答が多かった。したがって、入園料の値下げやシャトルバスの運行などよりも、動物とのふれあいやエサやり体験など、動物を身近に感じられる催しを行っていくことが今後重要であると考えられる。

4. 結論

アンケートの結果から、いしかわ動物園の来園者には、再来園の意思が多く見受けられるため、来園者数を増加させるためには、第一にリピーターになってもらうために季節ごとや時間ごとなどの違いを作ること、第二に一度でも来園してもらうための目玉となる動物・イベントを企画・発信すること、第三に現在よりも動物と触れ合うイベントの種類・時間を増やすことが望ましいと考えられる。

図1 いしかわ動物園が取り組んでいる事柄に対する来園者の意識調査(単位/人)

